

羽ばたく子どもたち

戦前から芦屋は教育都市として上級学校への進学率が高く、昭和25年度には中学校から高等学校へ進学するものは82パーセントと県下随一を示しました。

そこで昭和26年の「教育要覧」には、「中学生のほとんど全部進学を希望する本市の特異性に鑑み既存の県立高等学校1校、私立女子高等学校1校にては、進学の門戸あまりに狭く、どうしても市立高等学校の建設とさらに進んで美術音楽の専門大学の設置を必要とするのである」と書かれており、市立高校設立への気運が高まっていました。



制服 女子の制服は田中千代氏がデザインした。



市立芦屋高校 昭和40年ごろ



市立芦屋高校開校式 昭和37年5月1日

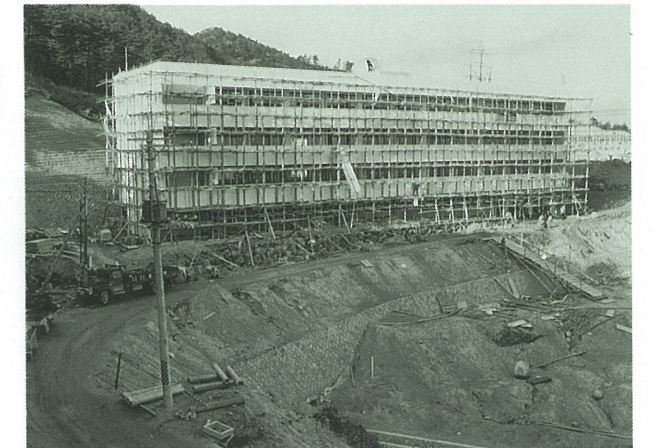


川西町(現体育館・青少年センターの位置)仮校舎時代の市立芦屋高校

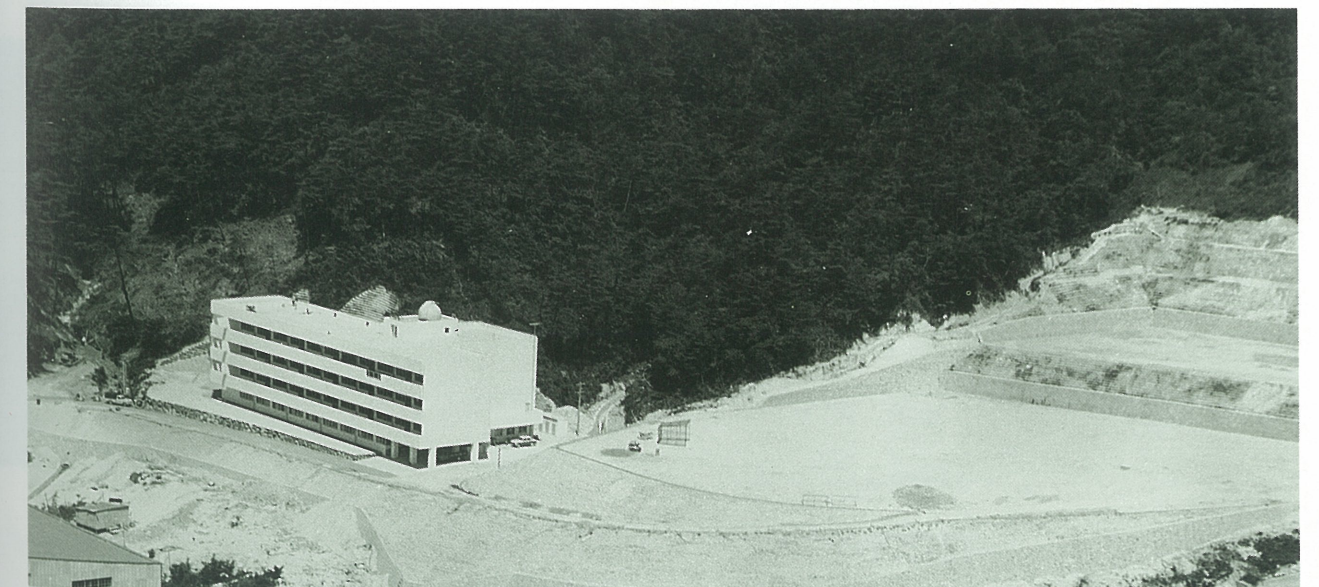
市立芦屋高校の設立

文部省では人口10万人以下の都市の市立高等学校建設は強く抑制する方針を打ち出していましたが、国際文化住宅都市建設法にける市民の熱意もあって、市長・市議会・市教委が合同の陳情を繰り返すなど努力と運動が続けられた結果、昭和36年10月21日に「芦屋市立芦屋高等学校」の設置認可がおりました。

開校時(昭和37年4月)の入学案内には「生まれながら一流高校に」とあり、厳正な入学試験の結果、志願者172人中106人が合格し、希望に燃えるスタートをきりました。



建設中の現在の校舎



市立芦屋高校全景 昭和39年現在の位置に校舎が完成。

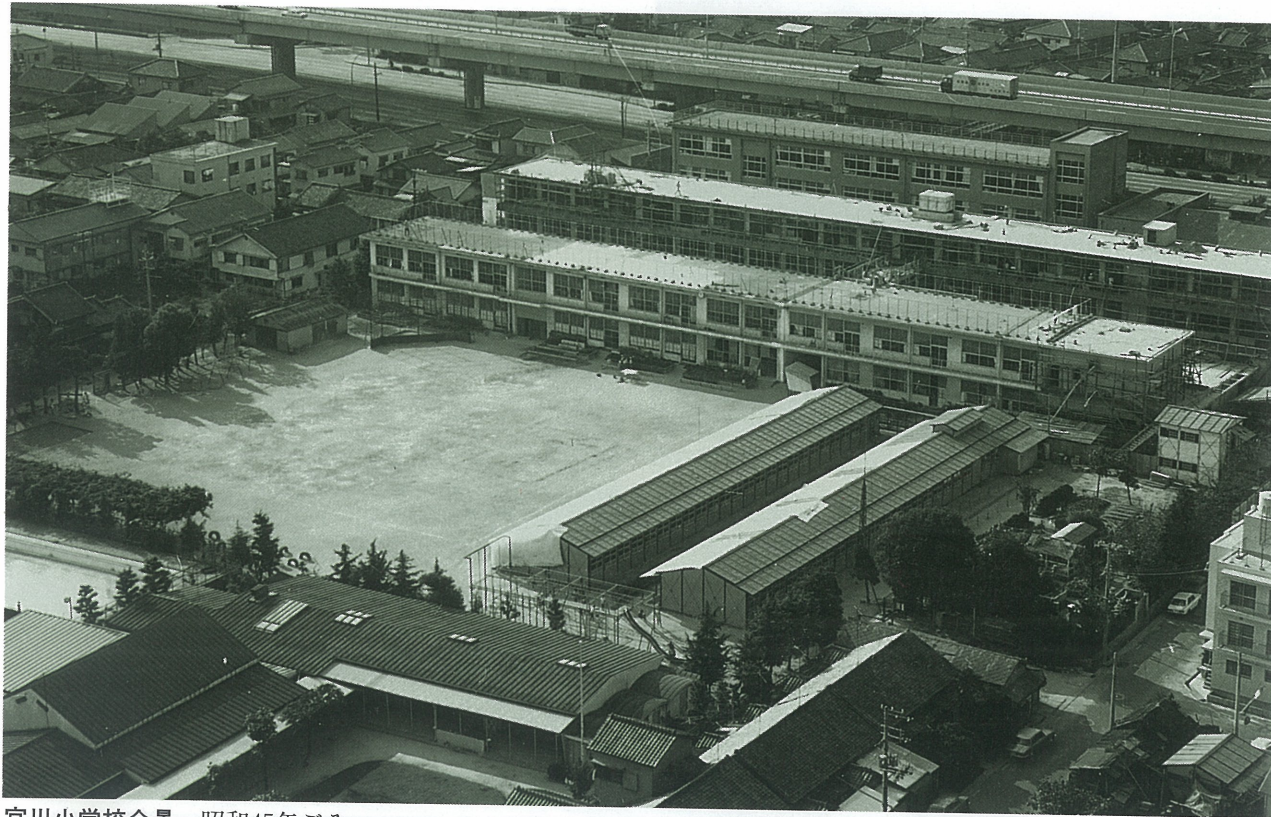
芦屋の学校

戦争で校舎の8割が罹災するなど、戦後本市の教育行政は難局に直面しました。

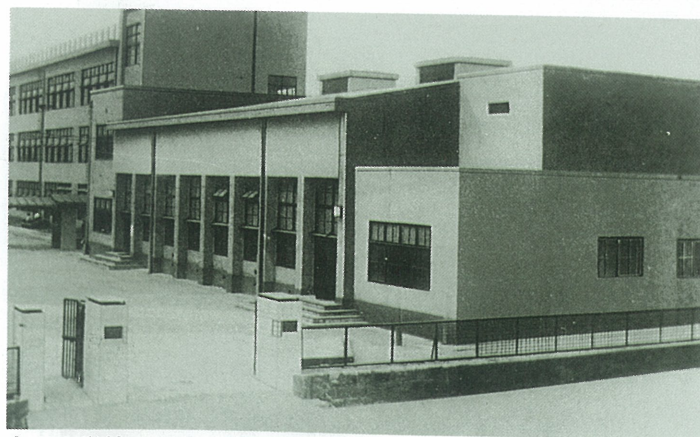
しかし、昭和26年4月に、文部省から指定を受けた全国7校のモデルスクールのトップをきって宮川小学校校舎が完成（山手中学校もモデルスクールに指定され27年9月に校舎落成）、市内学校施設の建設復興に努力した結果、この年には戦災小学校の8割を復旧し、中学校もその7割の校舎を整備することができました。これは当時

の財政や建築資材の状況を考えると驚異的なことでした。

昭和46年まで市立小学校は精道・宮川・山手・岩園の4校でしたが、その後、市北部の開発がすすむにつれ児童数も増加し、47年4月に朝日ヶ丘小学校開校、続いて53年4月に三条小学校を開校しました。また、芦屋浜住宅団地の完成によって、54年4月潮見小学校、57年4月打出浜・浜風両小学校が開校、全部で9校となりました。



宮川小学校全景 昭和45年ごろ



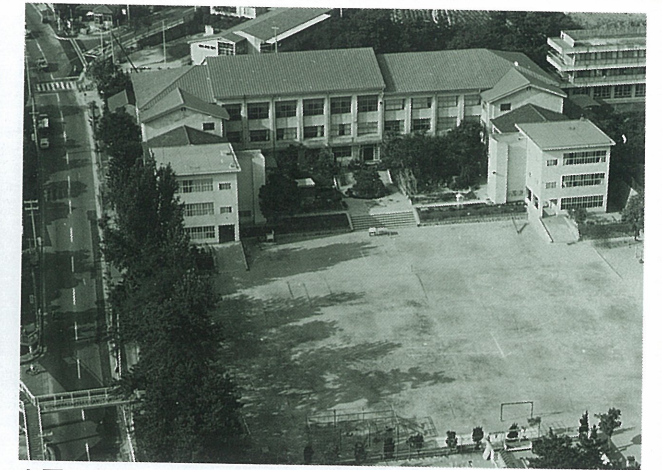
宮川小学校モデル校舎 昭和26年



精道小学校 昭和45年ごろ



山手小学校 昭和45年ごろ



岩園小学校 昭和45年ごろ



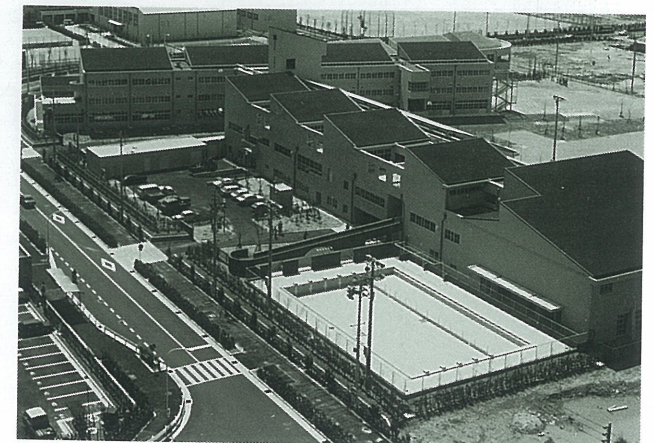
朝日ヶ丘小学校 昭和47年開校



三条小学校 昭和53年開校



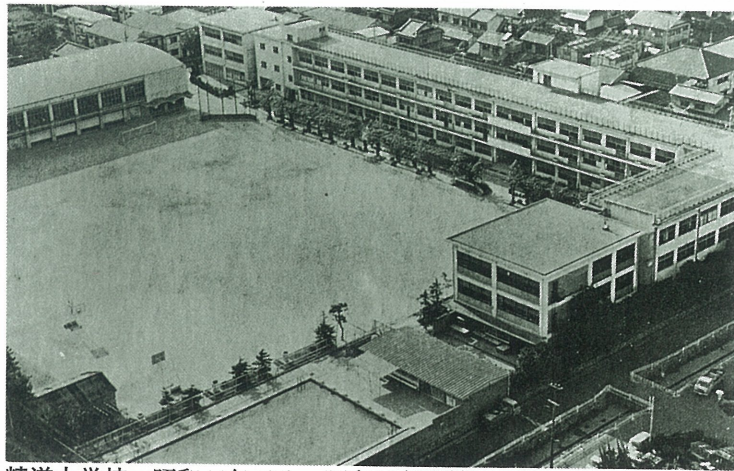
打出浜小学校 昭和57年開校



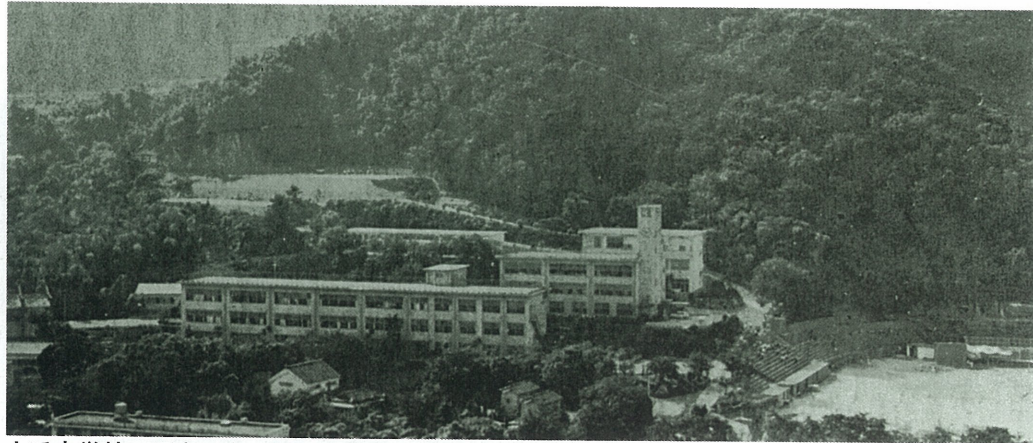
潮見小学校 昭和54年開校



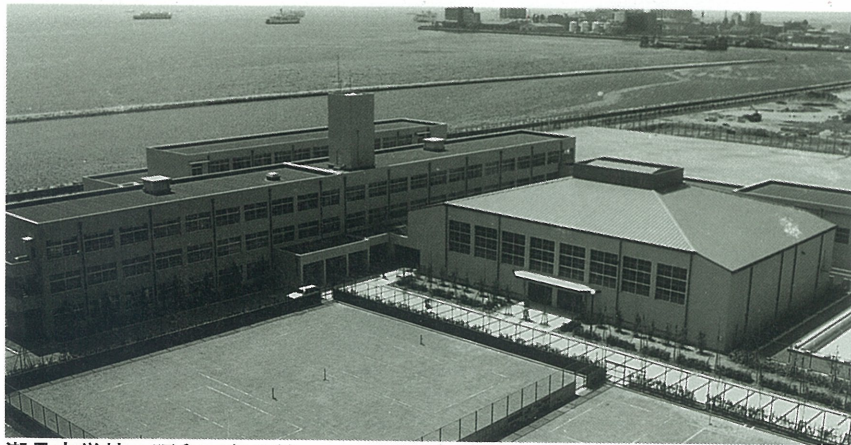
浜風小学校 昭和57年開校



精道中学校 昭和44年ごろ 昭和22年開校



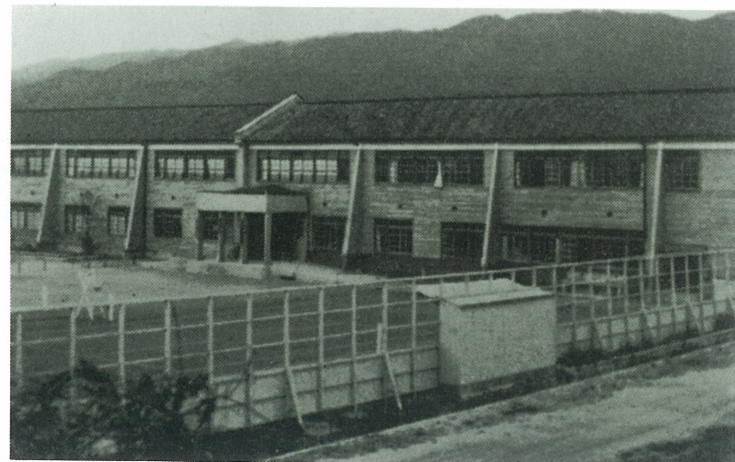
山手中学校 昭和44年ごろ 昭和22年開校



潮見中学校 昭和54年開校



市教育委員会発足当時の建物 精道町
(左から2軒目) 昭和25年12月



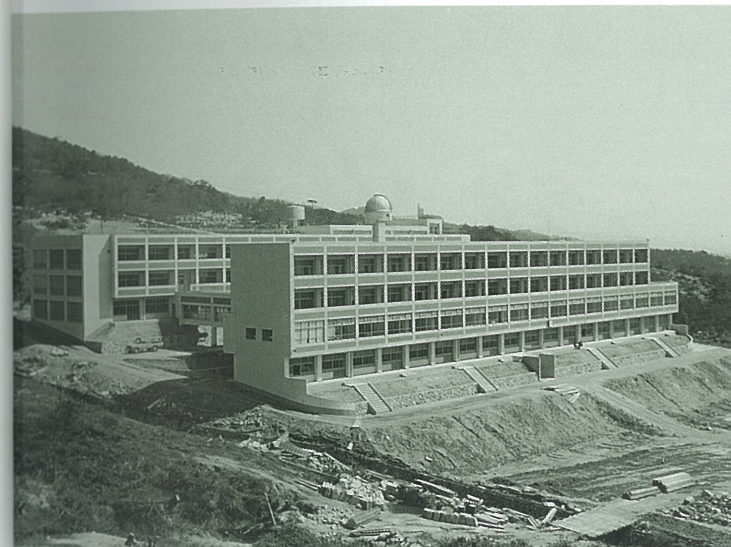
市教育委員会事務局庁舎
現在の体育館・青少年センター
のあるところ (昭和27~36年)



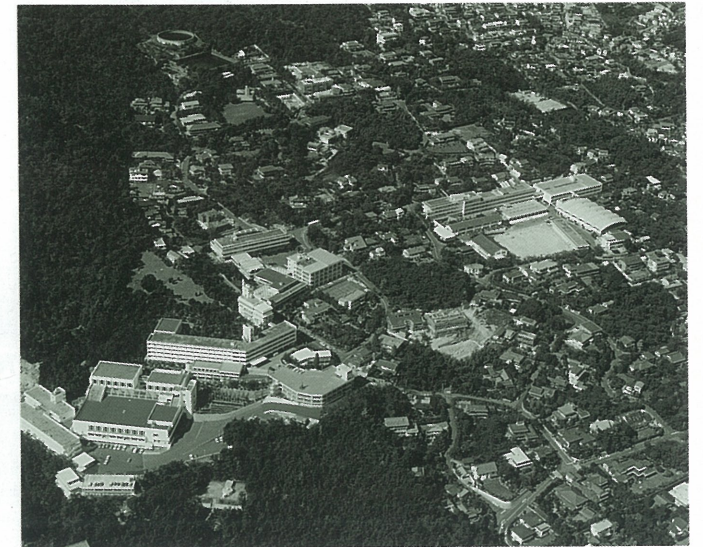
県立芦屋高校 昭和30年ごろ



県立芦屋南高校 昭和54年4月開校



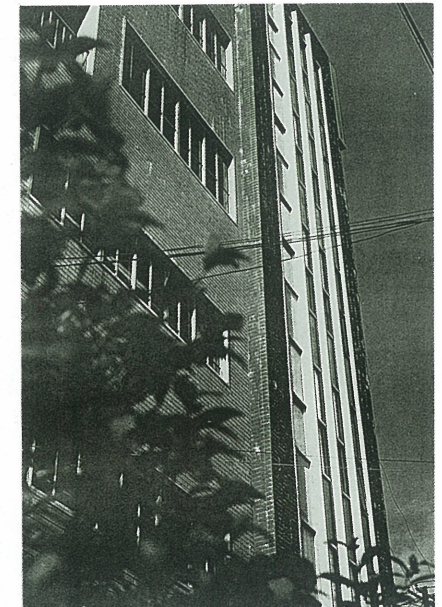
甲南中学校・高校 昭和38年4月東灘区から移転。
昭和38年撮影



芦屋学園、左下芦屋大学、その右上の塔のある建物(中央やや左、
旧国際ホテル)は芦屋女子短期大学、右上が芦屋大学附属中学校
・高校。昭和62年撮影。



田中千代服飾専門学校 昭和22年東灘区から大原町に移転。
昭和29年撮影



芦屋芸術学院 昭和40年開校

元気な子どもたち

夢、希望、限りない可能性—
こんな言葉が似合う子どもたち。

芦屋市では、明日の芦屋を担う子どもたちの人間性を伸ばし、創造性に富んだ個性豊かな子どもを育成するため、基礎学力の徹底を図るとともに、知・徳・体のバランスのとれた学校教育をすすめています。



元気な子どもたちをはぐくむ保育所 昭和47年ごろ



保育所で遊ぶ子どもたち 昭和45年ごろ



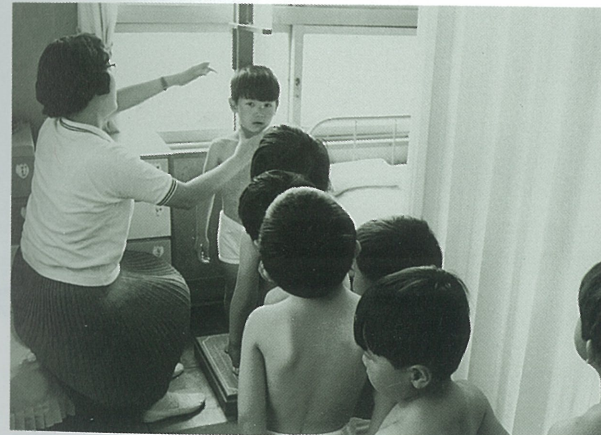
保育所の運動会 昭和46年ごろ



保育所のお昼とき 昭和42年ごろ



精道幼稚園 ひなまつり 昭和42年



岩園幼稚園 身体測定 昭和45年



宮川幼稚園 昭和41年ごろ



幼稚園の楽しい遠足 昭和42年ごろ

保健体育と給食

芦屋の学校給食は、戦前から開始され、当時から欠食児童の救済だけでなく、偏食の矯正や作法の指導といった面に力が入られていました。

戦後の完全給食実施後も、全国の先進地として、当時市内にあった4校すべてが、文部大臣表彰を受けるほどでした。

また、終戦以後、学校給食とともに「健康教育」を重点にかかげ、昭和29年には精道小学校が「全日本健康優良校」となり文部大臣表彰を受け、34年には健康優良児日本一に山手小学校の白石君が選ばれました。

—本市の健康優良学校のあゆみ—

- 昭和8年 精道尋常高等小学校学校弁当開始
- 19年 精道小学校ほかで戦時学校給食開始
- 20年 戦時学校給食中止
- 22年 小学校で補食給食開始
- 26年 小学校で完全給食実施
- 29年 精道小学校「全日本健康優良校」となり
文部大臣表彰(26~29年に4年連続県内1位)
秩父宮妃殿下岩園小学校の給食施設をご視察
- 32年 岩園小学校学校給食優秀校として文部大臣表彰
山手小学校学校給食優秀校として文部大臣表彰
- 34年 山手小学校 白石公一君健康優良児日本一となり
文部大臣表彰
- 37年 精道小学校給食優秀校として文部大臣表彰
- 38年 宮川小学校給食優秀校として文部大臣表彰
- 43年 精道小学校加藤恵子さん健康優良児日本特選
に入る
- 45年 山手小学校全国健康優良校特選校



給食時間の子どもたち 昭和47年



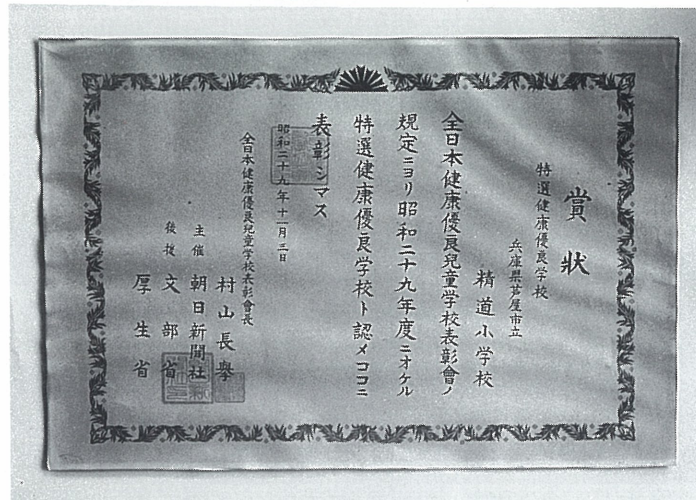
小学校の給食時間 昭和43年ごろ



給食の準備で大忙しの給食室 昭和47年



健康優良児日本一 昭和34年健康優良児日本一に輝いた山手小学校白石公一君(左)。山手小新山泰子さん(右)も県内特選に選ばれました。写真は県審査のあと。



昭和29年、精道小学校が「全日本健康優良校」に選ばれたときの賞状



精道小学校での歯みがき指導 当時は「健康教育」に重点をおき、なかでも精道小学校は昭和26年から4年連続県内1位となり、29年には「全日本健康優良校」に選ばれた。



岩園小学校ランチルーム 昭和63年ごろ